

2025 年年末に寄せて

2025.12.28 金古 尚

2025 年の最後の例会は恒例になってきた年末企画になります。これまで、ベートーヴェンの第 9、ヘンデルのメサイヤを実際にテキストを歌ってみてそれを聴いてきましたが、今回はバッハの「クリスマス・オラトリオ」とベートーヴェンの第 9 を取り上げようと思います。

バッハ：クリスマス・オラトリオ 第 3 部より

第 24 曲 第 27 曲 第 28 曲 第 29 曲 第 33 曲 第 34 曲 第 35 曲

アーリーン・オジェー (So) ユリア・ハマリ (Al) ペーター・シュライヤー (Te)

ヴォルフガング・シェーネ (Bs) シュトゥットガルト・ゲビンゲン聖歌隊

シュトゥットガルト・バッハ・コレギウム ヘルムート・リリング

Hanssler classic

Aufname April 1984

バッハのクリスマス・オラトリオは 1734 年に完成されています。全体は 6 部からなり 64 曲から成ります。オラトリオと言われますが、内容は 6 つの教会カンタータを 1 つにまとめたものと考えられます。一度に全曲演奏するよりも各部を別々に演奏するのが本来の姿といえます。実際初演は 6 日に分けて演奏されました。(1734 年)

今回聴く第 3 部はクリスマス第 3 日「天の統治者よ、この歌声をきけ」と題されています。3 日にわたって語られるキリスト生誕の物語の最後の部分にあたり、羊飼いが飼葉桶の中に寝かされている御子を見つけ、神を讃えながら家に帰るところまでが語られます。初演は 1734 年 12 月 27 日に行われました。ちなみに第 4 部はイエスが生まれて 8 日目、イエスと名付けられたことが語られます。これは 1 月 1 日にあたります。

第 24 曲は合唱「天の統治者よ、この歌声をきけ」二長調。トランペットとティンパニのとても華やかな音色を生かした序奏から始まる喜びの合唱です。

第 27 曲はレスタティーヴォ「天はその民を慰め」バスが歌います。羊飼いやへの呼びかけの音楽です。

第 28 曲はコラール「これらすべてを主は成したもう」。この旋律は 15 世紀の俗謡に基づく伝統のコラールの旋律ということです。

第 29 曲は二重唱「主よ、憐れみもて」イ長調。オーボエ・ダモーレの序奏を持つソプラノとバスの二重唱です。

第 33 曲はコラール「心から主に頼る」「なぜわれ思い悩む」という題名で知られる旋律で歌われます。

第 34 曲はレスターティーヴォ「羊飼いたちは帰りゆきたり」御子の誕生を見届けた羊飼いたちが家に帰っていった（ルカ 2 章 20 節）とテノールが歌います。

第 35 曲はコラール「喜べよ、救い主は」主の誕生を祝って歌ったコラール。旋律は「我らキリスト教徒たち」という題名で知られる。

ベートーヴェン：交響曲第 9 番二短調より第 4 楽章

アンネ・シュヴァーネヴィルムス (So) バーバラ・ディヴァー (Al)

ポール・グローヴス (Te) フランツ・ハウラダ (Bs) 東京オペラシンガーズ

サイトウ・キネン・オーケストラ 小澤征爾

2002.09.07 長野県松本文化会館 DVD PHI

年末に第 9 を聴くというのは最近では海外の演奏会でもみられるようになってきました。特に大晦日の演奏会のプログラムで見かけます。

1822 年「ミサ・ソレムニス」をほぼ完成したベートーヴェンは本格的に二短調の交響曲に取り掛かります。翌年の春には第 1 楽章、秋にかけて第 3 楽章が書かれています。終楽章にシラーの詩に基づく合唱が導入されたのは 23 年秋以降だろうと言われています。完成は 24 年 2 月なので最後の半年で終楽章が書き上げられ、全曲がまとまったことになります。初演は「ミサ・ソレムニス」とともにウィーンで行われました。

第 4 楽章は激しい序奏で始まります。そして低弦が、のちにバリトンが歌うことになるレスターティーヴォを演奏します。そして打ち消しの後、第 1 楽章の冒頭、第 2、第 3 楽章主題が現れ、オーケストラが「歓喜の主題」を提示します。序奏が再現され、バリトンが歌ったあと、合唱に引き継がれていきます。

2025 年も今日を含め 4 日になりました。来年も良い 1 年になることを祈っています。

それでは良い年をお迎えください。